

令和4年度 自己評価表

鳥取県立倉吉養護学校

中長期目標 (学校ビジョン)	○未来に向かい、自分らしく輝き、豊かに生きる子どもを育成する。	今年度の 重点目標	○自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成 ○質の高い職員集団づくり ○安全で安心な学校づくり ○「チームくらよう」の推進
-------------------	---------------------------------	--------------	--

評価項目	部	評価の具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果 () 月	
			現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評 価
自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成	A 部門	○日々の活動に意欲的に取り組み、自分なりの方法で表現する児童生徒の育成	○児童生徒の表出や表現方法を探り、授業づくりに活かすことで児童生徒の活動意欲の向上や表現力の変容が見られてきた。 ○表出・表現方法の探り方や活用の仕方等については、その都度職員間での共有に努めているが、より効果的に進めるために、実態把握の手段や視点、分析結果の活かし方や、それぞれのニーズに応じた系統的な題材や教材についての検討と整理が必要である。	○児童生徒が自分なりの方法で表現したり、周囲の人に関わろうとしたりする姿が見られる。 ※教員の8割以上が「できた」と回答	○児童生徒一人一人の表出や表現の方法について整理し、職員間で共有する。 ○児童生徒の特性や発達段階、学習状況、生活年齢を総合的に捉えた実態把握を行う。 ○根拠のある目標設定やそれに向けた題材や教材の整理と精選を実施し、学びの積み上げがわかる指導の充実を図る。 ○児童生徒の表出や表現の方法について、保護者と情報を共有する。		
	B 小学部	○主体的に取り組んだり表現したりする姿へつながる指導、支援の工夫	○子どもたちの達成感や、主体的に取り組む意欲を育むため、教育活動全体を通して、子どもたちの表出や表現する学びの土壌を作っていく必要がある。	○児童が学習や生活の中で自分の伝えたいことや表現したいことを自分なりの方法で表出したり、表現したりする姿が見られる。 ※教員の8割以上が「できた」と回答 ※学習の振り返り場面の様子をとらえて子どもの変容を評価	○児童の表出力や表現力を広げるために、有効な教材等の整理を定期的実施する。 ○学習内容や指導・支援の方法を共有し、評価・改善を行う。 ○児童の学習の様子、学習の広がりについて、保護者や関係機関と共有し、連携を取っていくことを継続する。		
	B 中学部	○表現力の育成を目指した授業の充実	○教科の目標を明確にして、教科間の関連性を図りながら、授業実践の積み上げをしていく必要がある。	○生徒が自分なりの方法で気持ちや思いを伝えることができたり、文化活動において自分から進んで作品制作や身体表現に取り組んだりすることができる。 ○授業を通して、生徒が言葉やジェスチャーで「できた」「わかった」等の達成感を表現する姿がある。 ※以上の2点について、それぞれ教職員アンケートで8割「できた」と回答 ※生徒アンケートや学習の記録から評価	○学習活動を通して生徒一人ひとりにどのような表現力を育てるかを明確にし、生徒自身が自分の成長を実感できるよう、気持ちや思いを伝える学習の成果の視覚化を行う。例えば記録を教室掲示したり、ポートフォリオ評価を行ったりする。 ○前年度より新設された美術について、表現の楽しさをより一層経験するために、更に積極的な発信を行ったり、相互評価・他者評価の機会をもつ。		
	B 高等部	○周りの人とのやりとりの中で、自分の意思を確実に伝えることができる生徒の育成	○単一生徒は、意思を伝えることができる相手が偏っていたり、一方的に意思を伝えるのみで相手の意見を受け入れることが難しかったりする生徒が多い。新入生は、言葉や頷き、首振りなどで意思を表すことはできるが、自分から周りの人に意思を伝えることが苦手な生徒が多い。 ○重複生徒は、言葉、頷きや首振り、やりたいことに向かっていく行動などで自分の意思を表したり、複数の選択肢の中から選んで自分の意思を表したりすることができるが、自分からの発信は少ない。	① 周りの人とのやりとりの中で、自分の意思や気持ちを素直に伝えることができる。 ② 周りの人からの声かけを受けて、自分なりの表現方法で、自分の意思を伝えることができる。 ※中間、学期末に、教職員アンケートをとる。 ①②とも80%が達成と回答した場合は、A評価。 ①②のいずれかが、80%が達成と回答した場合は、B評価。 ①②のいずれもが、達成と回答が80%以下の場合は、C評価。	①・授業や生活の中で、生徒同士、もしくは生徒と指導者がやりとりする機会を多く持つ。 ・お互いの意思や素直な気持ちを尊重しながら、方向性を決める。 ②・はい、いいえで答える、複数の選択肢の中から選ぶなど、自己選択、自己決定の機会を多く持つ。 ・自己決定を尊重し、自分の意見が周りの人に伝わったという経験を積み重ねる。		

		年 度 当 初			評 価 結 果 () 月			
評価項目	部	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評 価	次年度への改善方策
質の高い教職員集団づくり	研究部	○学習の基盤整備を活かした授業	○令和2, 3年度の校内研究で各種計画の整備やアセスメントの実施を行った。これらが授業にどのように活かされているのか教員間で学び合う機会が必要である。	○研究の日の授業公開を通してアセスメント等を授業に活かす工夫を知ることができる。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答	○授業者がアセスメント等を授業に活かしやすいするための活用シートを準備する。 ○参観者が授業において着目すべきポイントを事前研修で確認する。			
	教務部	○個別の指導計画の新様式の実践と検討	○今年度より、個別の指導計画の新様式を用いることとなった。本校の育てたい力「5分野の力」を柱とし、各教科でつけた力を明示する形である。この様式をすることで、指導者が各教科の目標を意識した授業づくりを実践するとともに、児童生徒の各教科等の力の育成が図れたかを検証する必要がある。	○個別の指導計画で立てられた各教科等の目標を意識した授業づくりをすることができる。 ○各教科等で個々に設定された目標に対して、達成度や次につながる評価を適切に行うことができる。 ※教職員アンケートで8割以上が肯定的評価であれば達成	○以下の3回、学級担任を中心に様式についてのアンケートと意見集約を行い、検討をしていく。①今年度計画の立案後(6月中旬) ②前期評価後(9月中旬) ③後期評価と次年度立案前(1月中旬)			
	全体	○時間外業務の原因把握と改善	○分掌や学部の業務に偏りが生じており、調整していく必要がある。 ○昨年度、月45時間を超えて時間外勤務する実態がある。	○日々勤務簿の自己管理を徹底するとともに、自ら改善策を考え、取り組むことで業務カイゼンへの意識を高める。 ※教職員アンケートで8割以上が目標達成のための方策を「できた」と回答	○会議をしない日やノー残業デーを設定し、計画的に勤務をする環境を整えるとともに、勤務簿の自己管理を徹底する。 ○業務カイゼンに関する職員へのアンケートを実施した結果をもとに改善策を取り組みにいかす。			
	事務部	○スムーズな事務処理と課題に対する解決	○業務の遅延が一部あった。 ○年度始めや予算要求時など時間外勤務が以前として多い。	○事務室のすべての業務を円滑に滞りなく、新たな工夫を取り入れ進化するよう努める。	○達成時期までのスケジュール感を事前に具体的にを行い、早め早めに動きだす。 ○遅延が予想される時は、協力を求める。			
安全で安心な学校づくり	健康安全部	○安全・安心への意識と体制作り	○各種訓練、研修会、ヒヤリハット等を通して、教職員の安全で安心な環境づくりに対する意識を高めるよう努めている。 ○新型コロナウイルスへの対応が必要である。 ○iPadを活用した拡大安全点検の集計方法についてシステムを整えていく必要がある。 ○地震、不審者対応などの緊急時対応に課題が挙がっている。	○児童生徒が安全な環境で学習できるよう、緊急時の訓練や安全点検、ヒヤリハットでの情報共有、課題への対応を適切に行う。 ○本校の新型コロナ対応基準及びガイドラインに則した対応をすることができるように努める。 ※教職員アンケートで肯定的評価が8割以上。	○安全項目チェック表を活用した点検(iPad)を行う。(年2回) ○安全・安心への意識を高めたり体制作りを行ったりできるように、緊急時対応訓練などを計画、実施する。 ○必要に応じて新型コロナ関係の基準を作成し情報共有、徹底を呼びかける。また、Googleワークスペースを活用し、在宅でも情報を閲覧できるようにする。 ○挙がっている課題について事務部と連携して対応する。			
	教育環境部	○より安全・安心な教育環境	○定期的な掃除道具点検、職員作業により、校舎内外の校内外の環境整備が整った。 ○TEAS報告やエコ点検を定期的に行っているが、エコについての取り組みがクラスによって差がある。特に、水道、紙の使用量が増えている。点検内容を見直したので、結果を見て呼びかけを行っている。	○安全・安心な教育環境づくりを行うとともに、エコに対する意識が高まる。 ※職員作業の実施(年2回) ※掃除道具点検の実施(学期1回) ※水道・電気の使用量が昨年度よりも減少する ※エコ点検で◎の割合が8割以上	○年に2回職員アンケートをもとに職員作業を計画実施し、安心安全で無駄のない環境づくりを行う。 ○委員会・分掌と連携し、環境、福祉に関する啓発をしていく。 ○電気、水の使用に対する具体的なエコに対する取り組みを示し、掲示板上にTEAS報告を載せ、全校への意識づけを行ったり、職員への協力を呼びかけたりする。			

		年 度		当 初			
評価項目	部	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策		
「チームく らよう」の 推進	情報教育部	○本校教育についての理解啓発につながり、指導支援の連携を密にしていくための教育活動の発信 ○ICTを活用した効率的な業務改善	○定期的にHPで教育活動について発信してきた。HPのリニューアルも行き、より分かりやすいものとなった。 ○臨時休業やコロナ感染症対応のため、長期学校に登校できない状況が起こる可能性がある。その時のためのオンライン教材の活用やオンライン授業ができる体制がまだまだできていない。 ○アンケート処理など紙ベースのため非効率な業務がある。	○教育活動や学校教育の情報掲載等、ホームページの充実を図る。 ※学部週1回以上のHP更新 ○感染状況を踏まえて校内においてオンライン授業が実施できるような支援する。 ※オンライン教材等の作成、オンライン授業の配信体制作り ○Googleワークスペースの利用促進によりペーパーレス化および効率的な業務改善を図る。	○定期的に情報掲載できるよう各部門、学部で当番制にし、週1回は更新する。 ○教職員のICT研修を行い、教職員の意識を高めながら、オンライン教材作成や家庭での学習に役立つアプリの紹介、ダウンロードできるプリント教材のアップなどに取り組む。 ○各分掌業務の中でアンケートなどGoogleフォームで行ったり、ドライブやミートを利用するよう声掛けを行う。		
	支援部(校内)	○PDCAサイクルに基づくケース検討会の実施	○校内支援委員会等で児童生徒の情報共有をすることはできているが、具体的な指導・支援について、検討したり評価したりしながら継続的に取り組んでいくことができなかった。	○校内支援委員会で情報共有とケース検討を繰り返し行い、PDCAサイクルで指導・支援について考える。 ・ケース会議実施者アンケートで8割以上が「校内支援委員会での検討が日々の支援に役立った」と回答 ・月に1回の頻度で検討会を実施する。	○情報共有の際に、検討が必要なケースについて意見を出し合う。 ○ケース検討では、内容等に応じて参加メンバーを選出し、会の実施が負担とならないようにする。 ○PDCAサイクルで取り組めるように、校内支援委員会を中心に各会議等を活用する。		
	支援部(地域)	○自己理解につながる指導・支援方法の情報提供	○指導者や保護者の困り感や気づきから、児童生徒へのよりよい指導や支援について話し合い取り組んでいくが、学齢が上がるにつれ、本人が支援の必要性や現状の困りに気づいていないケースが増えている。自分に合った学びの場を検討する際に、本人の納得のもと進路決定するためにも、自分の特性や必要な支援を知っておくことが重要となってくる。	○自己理解につながる指導・支援方法の情報提供ができた。 ・教育相談 ・支援会議への参加 ・各種アセスメントの協力 ・体験学習・体験入学の受け入れ ・通級指導	○市町の主任会等で地域支援活動の案内やセンター的機能の活用について案内する。 ○教育相談の際には、必要に応じてアセスメントを実施したり、体験学習・体験入学を活用し、対象児の特性を見とり、伝える。 ○通級指導教室で活用した児童の気づきを促すための教材をclassroom等を活用し、在籍校へ情報提供する。		
	キャリア教育部	○保護者への情報発信	○人権教育や進路に関する情報提供をしているが、受け取る側にとって学部や学年段階に合わせた情報提供が必要である。 ○コロナ禍の為、交流がなかなか予定通り実施できていないこともあり、保護者への発信ができていない。	○保護者アンケートで8割以上が「進路や人権教育・交流に関する情報発信ができています」と回答する。	○定期的なキャリア教育だより(PTA人権教育研修会・公開学習・交流関係(学校間・居住地)・進路に関する学習等の内容を掲載する)の発行(年6回) ○福祉セミナー等での保護者への事業所情報提供 ○学部だよりにより学部に応じた進路情報を掲載する。 ○小・中・高等部それぞれの段階に応じた進路に関する説明をする。(学部懇談・学年懇談等)		